

市町村立
小學校教
員加俸令
ノ僻陬地
ノ小學校
定小學校
指

俸

同
加俸令第七條第拾貳圓又ハ拾八圓
四項ニ依ル加俸拾貳圓又ハ拾八圓

市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ノ僻陬地市町村立小學校ヲ左ノ通り指定シ
大正三年五月廿八日
縣告示第二百六號

市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ノ僻陬地市町村立小學校ヲ左ノ通り指定シ
大正三年六月一日ヨリ施行ス
甲(最モ僻陬ノ地ニ在ルモノ)

菊池郡

眞木尋常小學校
小木尋常小學校

阿蘇郡

橋尋常小學校
高松尋常小學校
遊雀尋常小學校
秋原尋常小學校
上差尾尋常小學校
長谷尋常高等小學校

上益

星和尋常小學校
波居原尋常小學校
小峯尋常高等小學校
山鹿尋常高等小學校
黒川尋常小學校
東竹原尋常小學校
菅尾尋常小學校
檜木野尋常高等小學校
目丸尋常小學校

茶北

三坂尋常小學校
海路尋常小學校
川嶽尋常小學校
古石尋常小學校
久木野尋常高等小學校
大岩尋常小學校
横居木尋常小學校

球磨

小鷗尋常小學校
高澤尋常小學校
槻木尋常小學校
宮園尋常小學校
皆越尋常小學校
尾崎尋常小學校
古屋敷尋常小學校

天草

郡

古屋敷尋常小學校

八代郡

菅尋常小學校
島木尋常小學校
猿渡尋常小學校
水越尋常小學校
田代西部尋常小學校
朝日北部尋常小學校
田代東部尋常小學校
袴野尋常小學校
下益城郡
年福南部尋常小學校
葉木尋常小學校
小原尋常小學校
久連子尋常小學校
柿迫東部尋常小學校
柿迫西部尋常小學校
栗木尋常小學校

- 湯島尋常小學校
- 御所浦尋常小學校
- 嵐口尋常小學校
- 乙 (甲) 二次ク 僻陬ノ 地ニ在ルモノノ
- 飽託郡
- 野出尋常小學校
- 鹿本郡
- 上永野尋常高等小學校
- 阿蘇郡
- 二瀬本尋常小學校
- 上色見尋常小學校
- 萬成尋常小學校
- 上益城郡
- 御所尋常小學校
- 麻山尋常小學校
- 下名連石尋常小學校
- 下益城郡
- 福連木尋常小學校
- 小田床尋常小學校
- 碓石尋常小學校
- 豐富尋常小學校
- 八代郡
- 結歸尋常小學校
- 深水尋常小學校
- 葦北郡
- 吉尾尋常小學校
- 平國尋常小學校
- 井牟田尋常小學校
- 女島尋常小學校
- 赤崎尋常小學校
- 大野尋常高等小學校
- 百濟來尋常高等小學校
- 久多良木尋常小學校

教育資金
使用ニ關
スル規則
總則

教育資金使用ニ關スル規則

(大正五年四月七日 縣令第九號)

第一章 總則

第一條 教育資金ハ之ヲ左記各號ノ使途ニ充ツルモノトス

- 一、公立小學校設備費ノ貸付
- 二、公立小學校教員ノ疾病療治料
- 三、普通教育ノ普及改善及獎勵

第二章 貸付金

第二條 市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ於テ小學校設備費ノ爲ニ教育資金ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

- 球磨郡
- 屋形尋常小學校
- 江代尋常小學校
- 湯山尋常小學校
- 頭地尋常小學校
- 天草郡
- 高濱尋常高等小學校
- 大江尋常高等小學校
- 都呂呂尋常小學校
- 早浦尋常小學校
- 龜浦尋常小學校
- 久留尋常小學校
- 魚貫尋常高等小學校
- 下津深江尋常小學校

- 一、校地校舍ノ平面圖
- 二、工事ノ順序及完成ノ時期
- 三、當該年度ノ歳入歳出豫算
- 四、償還年次表

第三條

左記各號ノ一ニ該當スルトキハ設備費ノ貸付ハ之ヲ許可セサルモノトス
 一、市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ於テ小學校設備費ヲ要スルニ方リ其ノ設置區域住民ノ負擔ニ堪フルト認ムルトキ

二、當該年度ニ於ケル小學教育ニ關スル經常費支出額其ノ市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體經常費支出總額ノ三分ノ一ニ達セサルトキ

第四條 高等小學校ノ設備費ハ貸付セス尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スルトキハ其ノ總費額ノ五分ノ四ヲ以テ尋常小學校ノ設備費トシ之ニ對シ貸付金額ヲ定ムルモノトス

第五條 償還期限ハ五ケ年以内トシ延期ヲ許サス但市町村又ハ之ニ準ヘスキ公共團體ノ經濟ノ情況ニ應シ成ルヘク之ヲ短期トナスモノトス

第六條 貸付金ハ百圓ヲ以テ單位トシ利子ハ現金交付ノ翌月ヨリ返納ノ月迄月割ヲ以テ計算シ年賦返納金納付ノ際之ヲ徴收ス

第七條 正當ノ事由ナクシテ經費ノ貸付ヲ受ケタル事業ノ全部若クハ一部ヲ中止シ

或ハ其ノ施行年度ヲ變更スルトキハ期限ニ拘ラス一時ニ貸付金總額ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 第二條ノ規定ニ依リ町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ヨリ申請スル書類ニハ郡長ニ於テ意見ヲ付スヘシ

疾病療治料

第三章 疾病療治料

第九條 公立小學校教員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ休職又ハ退職ヲ命セラレタル者ニハ勤続年數及其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ疾病療治料ヲ給ス但休職期間中退職ヲ命セラレタル者ハ此ノ限リニアラス

第十條 前條ニ依ル支給額ハ左記標準ニヨリ之ヲ定ム

一、公立小學校正教員ニシテ休職ヲ命セラレタル場合ハ百圓以上貳百五十圓以下
 退職ヲ命セラレタル場合ハ貳百圓以上四百圓以下

二、公立小學校准教員ニシテ休職ヲ命セラレタル場合ハ五拾圓以上百五十圓以下
 退職ヲ命セラレタル場合ハ百圓以上貳百五十圓以下

三、公立小學校代用教員ニシテ退職ヲ命セラレタル場合ハ參拾圓以上百圓以下

第十一條 第九條ニ依リ疾病療治料ヲ受ケントスルトキハ休職又ハ退職ヲ命セラレタル日ヨリ六十日以内ニ第一號様式ノ履歷書及第二號様式ノ診斷書並戸籍謄本ヲ添ヘ郡市長ヲ經テ知事ニ願出サヘシ

照樣式參

第十二條 郡市長ニシテ前條ニ依リ願書ヲ受理シタルトキハ本人ノ病狀並家計ノ狀
 態其ノ他參考トナルヘキ事情ヲ取調ヘ意見ヲ具シ知事ニ進達スヘシ
 第十三條 疾病療治料支給ニ關シ知事ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル
 醫師ヲシテ本人ノ身體檢査ヲ行ハシムルコトアルヘシ

獎勵金

第四章 獎勵金

第十四條 教育基金令第五條第三號ニ依ル公立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ノ
 普及改善ニ關スル費用ハ概ネ左記各號ニ使用スルモノトス

- 一、市町村立小學校並教育功勞者ノ選奨
- 二、普通教育ノ改善上必要ナル講習講演研究調査及實地視察等
- 三、其ノ他普通教育ノ普及改善並ニ獎勵上必要ナル事項

第五章 附則

第十五條 本令ハ大正五年四月ヨリ實施ス

第十六條 明治三十三年六月熊本縣令第四〇號教育資金使用ニ關スル規則ハ本令施
 行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本令施行以前ニ貸付シタル貸付金ニ關シテハ仍從前ノ規
 程ニ依ル

附則

第一號樣式

(用紙美濃野紙)

官位勳功 爵學位	氏名	府縣族籍	生年月	原籍	資格	現住所	年號月日	任免俸給賞罰事項	官衙會社其ノ他

第二號樣式

診斷書

一、病名

住所 職名

何

年 某 齡

既往症 (遺傳又ハ傳染ノ關係等必要アルモノモ此欄内ニ記載スヘシ)

現症
診斷
治療法ノ大略
豫後
右之通診斷相違無之候也

年月日

住所

氏

名 ①

三大節ニ奉呈スヘキ賀表及言上書様式

三大節ニ奉呈スヘキ賀表及言上書様式(大正二年十二月六日 宮内省告示第卅二號)

新年ニ拜賀又ハ參賀スヘキ者及紀元節又ハ天長節ニ參賀スヘキ者地方ニ在ルトキハ賀表ヲ奉呈スヘシ新年ニ青山御所及東宮假御所ニ參賀スヘキ者地方ニ在ルトキ亦同シ
判任官及判任待遇者ニ付テハ各廳ノ長官ニ於テ其ノ參賀ヲ受ケ言上書ヲ調製シテ之ヲ宮中ニ奉呈スヘシ
賀表及言上書ハ左ノ様式ニ依リ宮中ニ奉呈スル賀表及言上書ハ式部職、青山御所ニ奉呈スル賀表ハ皇太后宮職、東宮假御所ニ奉呈スル賀表ハ東宮職ニ宛テ之ヲ送付スヘシ

様式

連名ヲ以テスルモ妨ナシ (横ニツ折)

言上書

<p>新謹奉賀 (紀元節) (天長節)</p>	<p>年月日</p>	<p>官位勳功學位爵氏名</p>	<p>折目</p>	<p>折目</p>	<p>折目</p>
<p>新 (紀元節) (天長節) ニ付判任官判任待遇者 一同之參賀相受此段言上候也</p>	<p>年月日</p>	<p>長官氏名</p>			

料紙ハ大廣奉書トス但シ美濃紙ヲ代用スルモ妨ナシ

(視學官及視學特別任用)

(視學官及)視學特別任用令

(明治三十二年六月十五日勅令第二百六十號)

- 第一條 (文部省視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用スルコトヲ得)
 - 一 (二箇年以上文部省直轄學校ノ學校長又ハ奏任教官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者)
 - 二 (五箇年以上師範學校長官立公立中學校長官立公立高等女學校長又ハ官立公立實業學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者)
 - 三 (三箇年以上前號ノ職ニ在リタル者ニシテ一箇年以上道廳府縣視學官ノ職ニ在リタル者)
- 第二條 (削除)
- 第三條 道廳府縣視學及郡視學ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用ス
 - 一 三箇年以上師範學校官立公立中學校官立公立高等女學校又ハ官立公立實業學校ノ學校長教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者
 - 二 小學校本科正教員タル資格ヲ有シ三箇年以上官立公立學校ノ學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者
 - 三 高等師範學校ノ卒業證書ヲ有シ二箇年以上官立公立小學校ノ學校長又ハ訓導ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者
 - 三 五箇年以上判任官トシテ教育ニ關スル職務ニ從事シ又ハ從事シタル者

公立學校職員席次ノ件

熊本縣社會教育職員職務規程

附則

- 第四條 第二條ニ規定シタル在職年數ハ本令施行ノ際ニ限リ其ノ半數ニ減スルコトヲ得
- 第五條 本令施行ノ際現ニ地方視學ノ職ニ在ル者ハ道廳府縣視學ニ任用スルコトヲ得
- 第六條 本令中同號ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス
 - 地方視學ノ在職年數ハ道廳府縣視學ノ在職年數ニ通算ス
- 公立學校職員席次ノ件 (明治二十六年六月九日訓令甲第五十二號)
 - 奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給額同シキトキハ任補ノ前後ニ依リ其他ハ高等官席次ノ例ニ依ルヘキ義ト心得ヘシ
- 熊本縣社會教育職員職務規程 (大正十年十一月縣訓令第六十二號)
 - 第一條 縣ニ社會教育主事一名社會教育主事補十三名ヲ置キ上司ノ命ヲ承ケ左ノ事項ニ關スル視察又ハ指導ニ從事シ兼テ其ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 青年團並處女會ニ關スル事項
 - 二 補習教育ノ獎勵ニ關スル事項

- 三 圖書館並ニ巡回文庫ニ關スル事項
- 四 教育的觀覽施設ニ關スル事項
- 五 民衆娛樂並ニ体育ニ關スル事項
- 六 兒童保護獎勵ニ關スル事項
- 七 育英事業ニ關スル事項
- 八 社會教育諸會合ニ關スル事項
- 九 其ノ他社會教化ニ關スル事項
- 第二條 社會教育主事補ハ各郡ニ一名ヲ駐在セシム郡駐在社會教育主事補ハ當該郡長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第三條 郡駐在社會教育主事補ハ第一條ノ事項ノ外左ノ事項ニ關スル視察又ハ指導ニ從事シ兼テ其ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 感化救濟ニ關スル事項
 - 二 地方改良ニ關スル事項
 - 三 民力涵養ニ關スル事項
 - 四 免囚保護ニ關スル事項
 - 五 兒童保護事業ニ關スル事項
 - 六 經濟的保護ニ關スル事項

- 七 社會事業ニ關スル團體ノ連絡統一並助成ニ關スル事項
 - 八 其ノ他社會事業ニ關スル事項
 - 第四條 社會教育職員ハ視察又ハ指導ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ上司ニ申告スヘシ
 - 第五條 郡駐在社會教育主事補ハ毎年八月十二月四月ノ三回ニ前四箇月分ノ勤務狀況ヲ附錄第一號様式ニ依リ知事ニ報告スヘシ
 - 第六條 社會教育職員ハ其ノ主管事項ニ付知事ニ意見ヲ申述フルコトヲ得
 - 第七條 社會教育職員ハ管内視察ニ當リ必要ト認ムルトキハ當事者ニ意見ヲ提示スルコトヲ得
- 附錄第一號
社會教育職員勤務狀況報告
- 一 出張狀況
- | 出張月日 | 場 | 所 | 用務及其ノ狀況 | 備 | 考 |
|--------------------|---|---|---------|---|---|
| 二 當該期間ニ於テ最モ努力シタル事項 | | | | | |

三、將來ノ計劃並縣郡等ニ對スル希望等
右及報告候也
年 月 日

職 氏 名

熊本縣教員互助會定款草案

熊本縣教員互助會定款草案
總則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ熊本縣內學校教員及教育關係者ノ協力ニ依リ互助ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ熊本縣教育互助會ト稱シ事務所ヲ熊本縣熊本市南千反畑町三八、三九、四〇、六〇番地ニ置ク
- 第三條 本會ハ第一條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フモノトス
 - 一、會員ニシテ死亡シタル時ハ在會年數ニ應シ吊慰金ヲ其ノ遺族ニ贈ルコト但遺族ハ權利トシテ之ヲ請求スルコトヲ得ス
 - 二、會員ニシテ病氣ノタメ又ハ學校官廳等ノ都合ニヨリ休職又ハ退職トナリタルトキハ在會年數ニ應シ慰藉金ヲ贈ルコト
 - 三、會員ニシテ不慮ノ災害ニ罹リタルトキハ必要ニ應シ相當ノ慰藉金ヲ贈ルコト
 - 四、會員ニシテ職時及事變ニ際シ應召シタルトキハ必要ニ應シ相當ノ慰藉金ヲ其

會員及會費

第二章 會員及會費

- ノ家族ニ贈ルコト
- 五、會員ニシテ被服ノ購買及調製ヲ依頼シタルトキハ之方供給ヲ計ルコト
- 六、其他本會ノ目的ヲ達スル上ニ於テ有益ナル事業
- 第四條 前條第一號吊慰金ハ別表第一號表ニヨリ第二號ノ慰藉金ハ別表第二號表ニヨリ之ヲ贈リ第三號第四號第五號第六號ニ關スル取扱ハ細則ノ定ムル所ニ由ル
- 第五條 本會ハ各都市ニ支部ヲ置ク支部ニ關スル規程ハ細則ニ於テ之ヲ定ム
- 第六條 本縣內學校教員及教育關係者ニシテ會費ヲ納ムル者ヲ會員トス
會員タラントスル者ハ入會申込書ニ署名捺印シ本會ニ提出スルモノトス
本會ノ主旨ヲ翼賛シ金員ヲ寄附シタルモノ又ハ本會ノ事業ヲ援ケ特別ノ功勞アリタルモノハ評議員會ノ議決ニヨリ贊助員又ハ特別贊助員ニ推薦ス
- 第七條 會員ハ會費トシテ毎月金貳圓ヲ納ムルモノトス
前項ノ會費納入ノ義務ハ滿三十五年ヲ以テ定スルモノトス
- 第八條 會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ退會者トス
 - 一、病氣其他事故ニヨリ退職又ハ休職トナリタルトキ
 - 二、自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ
 - 三、教育ニ關係ナキ官公職ニ轉シタルトキ

四、熊本縣外ニ轉任シタルトキ

第九條 會員ニシテ入會後滿六ヶ月以上ニシテ前條第二號第三號第四號ニ該當スル

モノニハ既納ノ會費ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル金額ヲ還付スルモノトス

第十條 會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其當時還付金又ハ慰藉金ヲ受

ケサルモノニ限リ會員ノ資格ヲ存續シ會費ヲ免除スルモノトス

一、病氣又ハ學校官廳等ノ都合ニヨリ休職ヲ命セラレタル期間

二、戰時事變ニ際シ應召シタルモノニシテ其ノ應召中又ハ除隊後復職スル迄ノ期

間

學校教員養成ヲ目的トスル學校等ニリシモノ、在入學中又ハ卒業後就職スル迄ノ

期間モ亦前項ニ準ス但此ノ期間ハ在會年數ニ加算セス

第十一條 病氣又ハ事故退職者ニシテ三ヶ月以内ニ就職シタル場合ハ退職當時還付

金又ハ慰藉金ヲ受ケサルモノニ限リ退職中ノ會費ヲ納入スル時ハ會員ノ資格ヲ繼

續スルコトヲ得但此ノ場合ハ權利保留ノ届出ヲ要スルモノトス

第十二條 教員養成所入學中及軍隊服役中ノモノニシテ會費ヲ納入スル時ハ會員ノ

資格ヲ繼續スルモノトス

第十三條 會員ニシテ會費ノ納入ヲ怠リ又ハ會員タル体面ヲ汚ス行爲アリト認めタ

ルトキハ常議員會ノ議決ニ依リ之ヲ除名ス

役員

前項被除名者ニハ既納ノ會費ヲ還付セス

第三章 役員

第十四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 副會長 二名

監査 五名 評議員 二十六名

常議員 五名 幹事 三名

事業主任 若干名 書記 若干名

第十五條 會長ハ理事トシテ本會ヲ代表シ兼テ會務ヲ總理シ會議ノ長トナリ副會長

ハ理事トシテ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ其ノ代理ヲナス監査ハ本會經費ノ收

支及財産ヲ監督ス幹事ハ會計其他ノ會務ヲ整理シ事業主任及書記ハ庶務ニ従事ス

第十六條 會長副會長常議員ハ評議員會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選舉シ監査ハ評議員

會ニ於テ互選シ評議員ハ各郡市支部ニ於テ會員中ヨリ二名宛之ヲ選出シ總テ名譽

職トシ其ノ任期ハ各三ヶ年トス但補欠當選者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ其後任者ノ就任スル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ

行フモノトス

幹事事業主任書記ハ會長之ヲ任免ス

第四章 會議

會議

第十七條 會議ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一、總會
- 二、評議員會
- 三、常議員會

第十八條 總會ハ毎年一回之ヲ開ク

評議員會ハ毎年一回會長之ヲ招集ス

臨時總會又ハ臨時評議員會若クハ常議員會ハ左記各號ノ場合ニ理事又ハ會長之ヲ招集ス

一、會長ニ於テ必要ト認メタルトキ

二、會員六分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ總會ノ開議ヲ請求シタルトキ

三、評議員六名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ評議員會ノ開議ヲ請求シタルトキ

會議ノ召集及其ノ目的タル事項ハ五日前書面ヲ以テ通知スルモノトス

第十九條 總會ニ於テ舉行スル事項ハ左ノ如シ

- 一、會務ノ報告
- 二、定款ノ變更

三、解散ノ議決

四、其他必要ノ事項

總會ニ於テ議決チナスハ出席會員ニ限ル

第二十條 評議員會ニ於テ議決スベキ事項ハ左ノ如シ

一、豫算ノ議決及決算ノ承認

二、本會財産ノ處理

三、細則ノ議定

四、總會ノ議決ニヨリ委任セラレタル事項

五、評議員六名以上ノ同意ヲ得テ提出シタル事項

六、其他會長發案ノ事項

第二十一條 常議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、第三條第三號第四號ニ關スル銓衡

二、評議員會ノ議決ニヨリ委任セラレタル事項

三、總會及評議員會ニ提出スヘキ議案ノ審査

四、評議員會ニ於テ議決スヘキ事項ニシテ緊急輕易ナルモノ但此ノ場合ニ於テハ次期ノ評議員會ニ提出シ其ノ承認ヲ經ルヲ要ス

五、其他會長發案ノ事項

會計及資產

第五章 會計及資產

第二十二條 本會ノ資産ハ左ノ如シ
一、本會設立當時ノ財産

二、會員ノ贈出金
三、本會ノ財産ニヨリ生スル收入金

四、補助金寄附金其他

本會經費ハ前項資産ヲ以テ之ニ充ツ
第二十三條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第二十四條 本會出納ハ翌年六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

第二十五條 資産ハ評議員會ノ議決ヲ經確實ナル方法ヲ設ケ之ガ増殖ヲ圖ルモノトス

第二十六條 會費徵收ニ關スル規程ハ細則ニ於テ之ヲ定ム

補則

第六章 補則

第二十七條 本定款施行ニ關スル細則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム
第二十八條 總會ノ開會ハ全會員ノ五分ノ一以上ノ出席ヲ要シ議決ハ出席會員ノ過半数ニ依ル評議員會又ハ常議員會ハ現在議員ノ二分ノ一以上出席シ其ノ二分ノ一

以上ノ同意アルニ非サレハ之カ議決ヲナスコトヲ得ス但同一議事ニ關シ再度招集シタルトキハ此ノ限ニ在ラス 可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十九條 本定款ノ變更ハ總會ニ於テ全會員三分ノ一以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之カ議決ヲナスコトヲ得ス

第三十條 本會ノ解散ハ總會ニ於テ全會員二分ノ一以上出席シ其ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ之カ議決ヲナスコトヲ得ス

第三十一條 法人ニ非サル熊本縣教員互助會ノ會員ハ本會設立ト同時ニ本會員トス前項ニ依ル會員ノ在會年數ハ相互之ヲ通算シ之ニ關スル取扱ハ細則ニ於テ之ヲ定ム

第三十二條 法人設立許可ノ際現ニ熊本縣教員互助會會長副會長監査評議員常議員タル者ハ其任期間當然本會ノ會長副會長監査評議員常議員トス

熊本縣教員互助會定款第四條別表

年數	第一號表 (吊慰金)		第二號表 (慰藉金)		年數	第一號表 (吊慰金)		第二號表 (慰藉金)	
	定額	特加額	計	計		定額	特加額	計	計
一年未滿	八〇	三三〇	四一〇	四〇	五	二四〇	四八〇	一四〇	一四〇
二	一三〇	三〇〇	四三〇	四〇	六	二八〇	五〇〇	一六〇	一六〇
三	一六〇	二六〇	四二〇	四〇	七	三三〇	五〇〇	一八〇	一八〇
四	二〇〇	二六〇	四六〇	四〇	八	三六〇	五〇〇	二〇〇	二〇〇

熊本縣教育互助會
細則
事業

熊本縣教員互助會細則

第一章 事業

- 第一條 定款第三條第一號及第二號ノ該當者アリタルトキハ地方委員ハ別紙様式ノ報告書ヲ調製シ支部長ヲ經由シテ會長ニ提出スルモノトス但第一號ノ該當者ニ就テハ遺族ノ關係ヲ見ルニ足ルヘキ戶籍簿本ヲ添付スルモノトス
- 第二條 會長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第一號該當者ニアリテハ其遺族ニ對シ第一號表ニ依リ第二號該當者ニアリテハ其本人ニ對シ第二號表ニ依リ地方委員ヲ經由シテ相當金額ヲ贈ルモノトス但寄贈金ヲ受領スヘキ遺族ノ指定ハ退隱料遺族扶助料法ノ規定ニ依ル
- 第三條 前項ノ金員ヲ贈リタルトキハ本會ハ其禮度支部長ニ通告スルモノトス
- 第四條 定款第三條第三號第四號ノ該當者アルトキハ地方委員ハ事情ヲ具シ支部長ヲ經由シテ會長ニ報告スルモノトス
- 第五條 會長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ常議員會ノ銓衡ヲ經第二條ニ準シテ取扱フモノトス
- 第六條 定款第三條ニ該當シ寄贈金ノ交付ヲ受ケタルトキハ地方委員ハ本人又ハ遺族ニ對シ贈金票ノ餘白ニ領收證ヲ記入捺印セシメ本會ニ返送セシムルモノトス
- 第七條 定款第三條第五號第六號ノ事業ニ關スル細則ハ別途之ヲ定ム

備考 四十一年以上ハ四十一年ノ寄贈額ト同一トス吊慰金ハ在會年數ニ應シ定額ト特加額トナ合セテ寄贈ス

九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

第二章 支部

第七條 各郡市支部ニ左ノ役員ヲ置ク

一、支部長 一名

一、錄事 若干名

一、地方委員 若干名

役員ハ總テ名譽職トス

第八條 支部長ハ會長之ヲ囑託シ錄事及地方委員ハ支部長之ヲ囑託ス

第九條 支部長ハ支部ニ屬スル一般ノ事務ヲ管理シ錄事ハ支部長ヲ補佐シテ會務ヲ

分掌ス地方委員ハ會費徵收其他ノ會務ニ從事ス

第十條 支部ニハ會務ニ必要ナル帳簿ヲ備フルモノトス

第十一條 支部ノ經費ハ本會ヨリ交付スル金額ノ範圍内ニ於テ豫算ヲ定メ毎年六月

限本會ニ報告スルモノトス

第三章 會員及會費

第十二條 會員タルヘキ教員其他教育關係者ノ種類左ノ如シ

一、小學校訓導

二、前號以外ノ學校教員中ノ希望者

三、教育事務ニ從事スル縣郡市ノ官公吏及教育會互助會關係者中ノ希望者

第十三條 前條該當者ニシテ會員タラントスルトキハ地方委員及支部長ヲ經由シテ

本會ニ申込ミ離金票ノ交付ヲ受クルモノトス

第十四條 會費ノ納入ハ振替貯金法ニ依ルモノトス

第十五條 會員ハ毎月二十二日限會費ヲ地方委員ニ納入スルモノトス但正當ノ理ナ

由クシテ納入翌月二十二日ヲ經過スル時ハ定款第十三條ニ依リ除名スルモノトス

第十六條 前條但書ノ該當者アルトキハ會長ハ調査ノ上適當ニ處理スルモノトス但

除名ノ場合ハ支部長及地方委員ヲ經テ本人ニ通告スルモノトス

第十七條 地方委員ハ第十五條ノ會費ヲ翌月十日迄最寄郵便局ニ預ケ入レ振替貯金

ノ手續ヲナスモノトス

前項ノ場合ハ所定用紙ノ各欄ニ要件ヲ記入シ其内譯ハ用紙ノ裏面ヘ明記スルモノ

トス

第十八條 會費ノ預入ニ要スル振替貯金用紙ハ地方委員ニ於テ本會ニ請求スルモノ

トス

第十九條 定款第九條ノ該當者ハ別紙様式ノ請求書ヲ調製シ地方委員及支部長ヲ經

由シ離出金ノ還付ヲ請求スルモノトス但退會後六ヶ月以内ニ請求セサルトキハ還

付セサルモノトス

第二十條 會長ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ細則第二條及第五條ニ準シテ取扱フ

役員
會議

第二十一條 支部長ハ定款第十三條第一項ノ後段ニ該當スルモノアルトキハ事由ヲ具シ會長ニ報告スルモノトス

第二十二條 會長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ常議員會ノ議決ヲ經支部長ニ通知スルモノトス但除名ノ處分ヲナシタルトキハ更ニ地方委員ヲ經本人ニ通告スルモノトス

第二十三條 會員ニシテ住所職業氏名等ニ異動ヲ生シタルトキハ地方委員ヲ經本會ヘ届出ルモノトス

第二十四條 賛助員ハ一時ニ金貳拾圓以上ヲ寄附シタルモノトス特別賛助員ハ一時ニ金五拾圓以上ヲ寄附シタルモノ又ハ本會ノ事業ヲ援ケ特別ノ功勞アリタルモノトス

第四章 役員

第二十五條 幹事三名ノ内一名ハ縣視學中ニ一名ハ教育會幹事中ニ囑託シ一名ハ專任トス

第二十六條 會長副會長事故アルトキハ幹事合議ノ上會務ヲ進捗スルモノトス

第二十七條 本會常議員ハ熊本市及飽託郡在住ノモノニ限ル

第五章 會議

會計及資產

補則

第二十八條 定款第三條ニ關スル銓衡ハ其調書ヲ作製シテ之ヲ永久ニ保存スルモノトス

第六章 會計及資產

第二十九條 專任幹事ハ第十七條ノ拂込通知票ヲ福岡振替貯金課ヨリ送付シ來リケルトキハ所定ノ會費徵集簿ニ記入ノ上該票ハ適宜保存スルモノトス

第三十條 專任幹事ハ財産目錄備品簿會費徵集簿現金受拂簿其他必要ナル帳簿ヲ備ヘ金錢ノ出納ヲ明ニスルモノトス

第三十一條 專任幹事ハ二月末日限次年度ニ於ケル歳入歳出豫算ヲ編製シ會長ニ提出スルモノトス

第三十二條 監查例會ハ毎年二月上旬ニ開クモノトス

第三十三條 專任幹事ハ毎年九月末日限其前年度ニ於ケル決算書財産現況調書ヲ製シ會長ニ提出スルモノトス

第三十四條 會長ハ毎年三月上旬豫算及決算ヲ評議員會ニ提出スルモノトス

第三十五條 事務ノ完結シタル重要書類ハ部門ヲ分チテ編纂シ之ヲ保存スルモノトス

第七章 補則

第三十六條 法人ニ非ラサル熊本縣教員互助會成立當時現ニ熊本縣學校教員及教育

關係者トシテ在職セシ會員ニシテ法人ニ非ラサル熊本縣教員互助會規則細則第七章補則第三十三條及第三十四條ノ權利ヲ得タルモノハ本會設立後モ其資格ヲ存續スルモノトス

一、細則第一條ニ係ル報告様式

大正 年 月 日

何郡何小學校地方委員 何ノ誰 印

熊本縣教員互助會長殿

報告書

(原籍)

(現住所)

(退會當時職名)

(死亡)

(右) 大正 年 月 日死亡

(右) 大正 年 月 日病氣退職(何々ニ依リ休職)

職務履歷 (退職ハ其事由ヲ明記スルヲ要ス)

年	月	日	辭	令	場	所

一、死亡報告ニハ戸籍謄本ノ添付ヲ要ス

熊本縣教員互助會員申込書

一、原籍

一、現就職學校名

一、現職名

熊本縣教員互助會ニ入會致度此段申込候也

大正 年 月 日

右 氏 名 印

熊本縣教員互助會長殿

一、細則第十九條ニ係ル請求書様式

大正 年 月 日

元何郡何小學校互助會員 何ノ誰 印

熊本縣教員互助會長殿

釀出金還付請求書

(原籍)

(現住所)

(請求者)

諸願届様式

二二二

(理由) 大正年月日何々ノ為メ依頼退職(何々へ出向ヲ命セラレ)

職務履歴 (退職ハ其事由ヲ明記スルヲ要ス)

年月日 辞

令 場 所

諸願届様式

御眞影拜戴申請

諸願届様式

年月日

知事宛

郡市長 氏

名 印

御眞影拜戴(轉戴)ニ關シ申請

天皇陛下

皇后陛下御眞影ヲ本郡(市)何々尋常高等小學校ニ拜戴(元何々小學校ニ拜戴セシテ

轉戴)致サセ度候間御下賜方御取計相成度別紙奉安所位置、設備ノ狀況、圖面並奉

衛規定相添へ此段申請候也

記 (例)

一、奉安所ノ位置及設備ノ狀況

奉安所ハ本校講堂ノ南端ニシテ別紙圖面ノ通り横何尺縦何尺奥行何尺清楚堅

牢ニシテ内部ヲ上下ノ二階段ニ分チ上段ニ御影ヲ下段ニ勅語謄本ヲ安置シテ

幕ヲ垂レ前面二枚ノ扉ニヨリ開閉スル外後側ハ壁ヲ以テ其他ハ厚板ヲ以テ堅

ク之ヲ圍ヘリ

二、御影並勅語謄本奉衛規定

一、御影並勅語謄本ハ所定ノ奉安所ニ最モ尊重ニ奉置ス

校數位置
認可申請

- 二、奉安所ノ開閉ハ一切學校長之ヲ掌リ(但非常變災ノ際ハ此ノ限ニ在ラズ)
- 三大節及其他臨時ニ定メラレタル場合開閉スル外常ニ嚴重ニ閉鎖ス
- 三、奉安所ノ奉衛ハ晝間ハ平日ニ於テハ當直休業日ニ於テハ日直員其他ハ宿直員ノ任務トス
- 四、奉安所ノ鍵ハ別ニ鍵函ニ納メ奉衛當番者之ヲ保管シ交代ノ際次番者ニ引キ續クモノトス
- 五、非常變災ノ際ハ奉衛當番者第一ニ御影並ニ勅語贈本ヲ第一奉遷所ニ第一奉遷所危險ノ時ハ第二奉遷所ニ奉遷シ守護スルモノトス

年 月 日

郡市長 氏

名 印

尋常小學校々數並位置指定認可申請
 本郡何々村、何々村、何々村ノ三村ヲ併合シテ何々村ヲ置カレ候ニ就テハ全村ノ尋常小學校校數並ニ其ノ位置ヲ左ノ通り指定致度其ノ村ノ意見ヲ徴シ候處異議ナキ旨
 答申候條御認可相成度此段申請候也

一、校數壹

高等小學
校併置認可申請

- 二、位 置 (大字、字、地番、地目、反別ヲ記ス)
- 三、通學距離 (設置區域内各部落ヨリ學校位置「從來ノ位置及新ニ指定セントスル位置」ニ通スル距離及其ノ道路ノ難易)
- 四、戶數人口 學齡兒童(男女)(設置區域別ニ記ス)
- 五、町村圖面 (山川、道路、人家所在ノ狀況、新舊學校ノ位置、學校所屬部落ノ區劃等ヲ記ス)
- 六、校地圖面 (區劃シテ地番、反別、附近ノ狀況、方位ヲ記ス)
- 七、實施年月日
- 八、歲入歲出ノ豫算書
- 九、議事錄寫並ニ答申書寫

高等小學併置認可申請

本村何々尋常小學校ニ貳々年程度ノ高等小學校併置致度候間御認可相成度本縣令第五號小學校令施行規程第四條ニ基キ別紙要項相具シ此段申請候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

知 事 宛
 一、名 稱 何々尋常高等小學校

實業補習學校併設認可申請

- 三、位 置 大字何字何番地如何反何畝何歩
 - 三、修業年限 貳ヶ年
 - 四、學級編制豫定表 別紙ノ通(縣令參照)
 - 五、校地校舍圖面 別紙ノ通(縣令參照)
 - 六、村 財政 調 (縣令參照)
 - 1、歲入出豫算書 別紙ノ通
 - 2、學校基本財産調 別紙ノ通
 - 七、開校年月日 大正 年 月 日
 - 八、議事 錄 寫 別紙ノ通(縣通牒ニ依ル)
- 實業(農業)補習學校併設認可申請 (用紙美濃野紙)
- 熊本縣何々郡何々尋常小學校ニ實業(農業)補習學校ヲ併設致度候間御認可相成度別紙調書相添へ此段申請候也
- 年 月 日
- 知 事 宛 市町村長 氏 名 印
- 一、名 稱 實業(農業)補習學校併設申請ニ關スル調書 (用紙美濃野紙)
 - 二、位 置 熊本縣何々郡何々尋常小學校ニ併設

- 三、修業年限 學科目及其ノ程度教授時數
 - 1、修業年限 男子八ヶ年 前期二ヶ年後期三ヶ年 研究科各々二ヶ年
女子六ヶ年 前期、後期、研究科各々二ヶ年
 - 2、學 科 男子 修身、公民、國語、算術、農業、商業、理科、体操
女子 修身、公民、國語、算術、農業、裁縫、家事、唱歌
 - 3、學科目及其ノ程度 別紙學則第何章ノ通リ
 - 4、教授時數 一ヶ年 男子三百時 女子五百時
- 四、生徒定員 男子百人 女子百人
- 五、學 則 別紙添付(用紙美濃野紙大正九年十二月縣訓令六三號參照)
- 六、敷地建物ノ圖面 別紙添付
- 七、收入支出豫算表 別紙添付
- 八、職員數及俸給額ノ豫定
 - 1、職員數
 - 2、俸給額
- 九、設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情况 備 考
 - 1、分教場ヲ設置スル場合ハ町村部落圖面ヲ添付スベシ

敷地擴張
認可申請

2、學則ハ(イ)學校ノ目的(ロ)修業年限(ハ)定員(ニ)學科目及其ノ程度
(ホ)教授時數(ヘ)教授時刻及季節(ト)休業日(チ)入學退學
(リ)授業料(ヌ)雜則等ノ項目ニ分ツテ便トス

年月日

郡市長 氏

名 宛

小學校敷地擴張指定認可申請
本郡何々小學校敷地狹隘ニ付左ノ通り指定致度其ノ村ノ意見ヲ徴シ候處異議ナキ旨
答申候條御認可相成度此段申請候也

記

- 一、擴張敷地 (大字、字、地番、地目、反別等ヲ記ス)
- 二、校地圖面 (區劃シテ地番ノ反別、附近ノ狀況、方位並ニ舊校地及校舍ノ位置等記入)
- 三、歳入歳出ノ豫算書
- 四、議事録寫並ニ答申書寫
- 五、現在ノ兒童數現在ノ運動場坪數、全兒童一人當調

年月日
知事 宛

市町村長 氏

名 宛

則七六
程二六
參照

教科目加
設認可申
請

教科目加設(削除)認可申請
本村(市町)何小學校ニ於テ左記教科目加設(削除)致度候條御認可相成度事由ヲ具シ
申請候也

記

- 一、教 科 目 何々
- 二、每週教授時數 何時間(學年別)
- 三、教授時間ノ充當 (加設ノタメニ他ノ教科目ノ時數ヲ減スル時ハ其ノ教科目
名及學年別減少時數ヲ記スベシ)
- 四、事 由 (詳細記載)

年月日

市町村長 氏

名 宛

教授時數
增減認可
申請

每週教授時數增加(減少)認可申請
本村(市町)何小學校ニ於テ左表ノ通り每週教授時數增加(減少)致度候條御認可相成
度事由ヲ具シ申請候也

- 一、增加(減少)ニヨル時數表

令二三
程一二
參照

則一九
程一二
參照

制限超過
學級編制
認可申請

科目名	學年	學年	學年	學年	學年	學年	學年	學年
、			時					
、			時					
、			時					
、			時					
、			時					
、			時					

二、事由 (詳記)

年月日

市町村長 氏

名 印

知事 宛

制限超過學級編制認可申請

管内、小學校ニ於テ左記事由ニ依リ制限超過ノ學級編制致度候條御認可相成度左ノ事項ヲ具シ申請候也

一、事由

二、學級編制表

三、教室圖面

1110

則二九
程一五
參照

校舍新築
認可申請

學年	當該年度		次年度		第三年度		備考
	兒童數	學級數	兒童數	學級數	兒童數	學級數	
尋常科							
第一學年							
第二學年							
第三學年							

一、學級編制表
二、將來増加スヘキ豫定學級數(左表ニ依ル)

四、市町村財政調
年月日
知事 宛
校舍新築(増築、改築、模様替)ニ付認可申請
本村何々尋常高等小學校々舎、何々ノ理由(理由詳細ヲ要ス)ニ依リ校舍新築(増築、改築、模様替)致度本村會ノ決議ヲ經候ニ就キテハ御認可相成度別紙關係書類相添へ稟請候也

市町村長 氏

名 印

則七六
程二六
參照

1111

計	全 第二學年	全 第一學年	全 高等科	全 第六學年	全 第五學年	全 第四學年

- イ、次年度、第三年度ニ於ケル見込數ハ戶籍簿其他正確ナル資料ニ依リ調査記載ノコト
- ロ、兒童ノ増加又ハ減少ノ數ニ著シキ相違アル時、其他説明ヲ要スヘキ點ハ必ス備考欄ニ記載ノコト
- 三、校地校舍圖面
 - イ、校地圖ハ校舍及体操場ヲ配置シ方位並周圍ノ狀況及校地、体操場ノ坪數ヲ記ス

免許狀書換願

免許狀再下附願

- ロ、校舍圖ハ教室、教員室、機械室其ノ他各室ノ配置並其ノ坪數ヲ記シ教室ニハ教壇ノ位置ヲ示スコト
- ハ、増築、改築、模様替ノ箇所ハ特ニ色ヲ異ニシ明瞭ナラシムルコト
- 四、町村財政調(歳入歳出豫算表、町村學校基本財産「金穀、土地、證券等ノ種別ヲ記ス」負債額並償還ノ方法)
- 五、着手及竣工期日

右ノ通り族籍(氏名)變更致候ニ就テハ小學校教員免許狀書換御下附相成度別紙免許狀相添へ此段相願候也

年月日
知事宛
現住所
氏名

免許狀再下附願

左記免許狀紛失(焼失)致候條再下附相成度此段相願候也

私儀

則二、一四六、參照

右同

一、種類 小學校本科正教員免許狀(該當ノモノヲ記ス)
二、收得年月

年月日 知事宛 現住所 氏名 (印)

實業補習教育費補助申請書

- 一、一定シタル申請書ノ様式ナシ
 - 一、添付書類 當該年度ノ歳入出豫算書、左記様式ノ細別表
- 實業補習學校教員俸給補助細別表

學校所設學校 在ノ郡立校ノ種 市町村者名類	修業年限	本校一 ヶ年間 ノ授業 時數	本校生 徒數	俸給 額	當該年度前年度 ニ於ケル補助金		任用 普通科 學	職
					月額	年額		
					交付額	月	擔任別	名氏

一、參照規程 通牒大正一〇、三、二三縣令第一四號實業補習教育費補助規程大正

一二、六、一五學第一〇七五號通牒
何々補習學校調查表

- 一、前年度就學步合
- 一、前年度教授日數
- 一、專任教員給ノ豫算計上額
- 一、專任教員ノ併設小學校ニ關係セル職名、受持教科、學年、事務又ハ其ノ町村、農會等ノ事務ノ關係ノ有無及其ノ關係事項、勤務日數、時數及其ノ手當報酬額
- 一、補習學校學級數
- 一、併設小學校學級數
- 一、成績優良ト認ムヘキ要點(本項ハ郡ニ於テ實地調査ノ結果ニ依リ記スコト)

教育資金貸下付申請書

年月日 知事宛 市町村長 氏名 (印)

一、金何圓也

本村何々尋常高等小學校々々舍ハ何々ノ理由ニ依リ今般増築(改築、模様替)致度候處此工費總額何圓ニテ何々ノ理由ニ依リ本村民ノ負擔ニ堪ヘ兼テ候條教育資金標

雜則中 教育費 金則使資 規則參

記ノ金額御貸下相成度別紙關係書類相添へ此段稟請候也

別紙

- 一、校地、校舎ノ平面圖(校舎新築、増築、改築、模様替申請例同圖参照)
- 二、工事ノ順序及完成ノ時期
- 三、當該年度ノ歳入歳出豫算(校舎新築、増築、改築、模様替申請例参照)
- 四、償還年次表

年月日

市町村長 氏

名 附

知事 宛

公立圖書館設置認可申請

年月日 日本村(町)會ノ決議ヲ經本村(町)立圖書館設置致度候條至急御認可相成度左記事項ヲ具シ此段及申請候也

記

- 一、名 稱
- 二、位 置
- 三、經費及維持ノ方法
- 四、敷地建物坪數及圖面
- 五、開館年月日

公立圖書館
圖書則參
照

教員住宅
補助申請

六、館則

(注意)

- (1)、村會決議寫及村豫算寫ヲ添付スルコト
- (2)、館則中ニハ館員職務規定ヲ設ケサルコト

年月日

市町村長 氏

名 附

知事 宛

教員住宅補助申請

本村何小學校ニ於テ何々ノ理由ニ依リ教員住宅設置致度候條相當補助金御交付相成度左記事項ヲ具シ此段申請候也

記

備考 一、要項ハ明治四十一年三月十九日縣告示第百二十三號參照ノコト

二、申請ハ會計年度ノ前年度末日迄ニ提出ヲ要ス

三、學校及地方ノ狀況上必要ノコトアリト雖モ決シテ宿直室、教室、各種集會所等ニ充用スルハ住宅設置ノ目的ニ反シ縣費補助ノ精神ニモ適合セサルニ付特ニ注意ヲ要ス但其ノ一部ヲ青年夜學場ニ兼用スルハ認めアルモ其ノ認可ニ就テハ飽ク迄教員住宅ノ本質ヲ失セサル様注意ヲ要ス

恩給請求書

恩給請求書

元熊本縣何郡市何小學校訓導(兼學校長)

何

某

右者大正何年何月何日何々(病氣、家事故障、何々)ノ故ヲ以テ退職ヲ被命候處在職十五年以上ニ付成規ニ依リ相當恩給御給與相成度別紙履歷書、戶籍謄本添付此段相願候也

右

何

某 ㊦

知事宛

備考

一、恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シアル日(退職ノ日)ヨリ七ヶ年内ニ請求セサルトキハ時効ニヨリテ消滅ス但退職後一年内ニ正教員以上ニ再就職スルトキハ其ノ請求期限ハ再就職ニ係ル官職退職ノ日ヨリ進行ス

二、添付ノ履歷書ハ原籍、現住所、元職名、生年月日等ヲ詳記スルハ勿論ナレトモ講習會出席ノ如キ恩給ニ關係ナキ分ハ省略ノコト任免事項ハ辭令書面ノ通り記載ノコト(准訓導、准訓導心得等ノ事實モ含ム)

三、二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ就テハ年數

恩給規則
第二條
參照

一時恩給請求書

一時恩給請求書

元熊本縣何郡市何小學校訓導(兼學校長)

何

某

右者大正何年何月何日(病氣、家事故障、何々)ノ故ヲ以テ退職ヲ被命候ニ就テハ成規ニ依リ相當一時恩給御給與相成度別紙履歷書相添へ此段及請求候也

右

何

某 ㊦

知事宛

備考 履歷書認メ方注意事項ハ恩給請求書ニ全シ

一時扶助料(扶助料)請求書

故熊本縣何郡市何小學校訓導(兼學校長)

扶助料請求書

恩給規則
第六條
參照

恩給規則
第四條
參照

右者大正何年何月何日在職中死亡致候ニ付テハ(十五年以上勤務ニ付成規ニ依リ扶助料)(何ヶ年勤務ニ付成規ニ依リ一時扶助料)御給與相成度別紙履歷書、戸籍謄本相添へ此段及請求候也

右 何 某
寡婦(孤兒、又ハ何々) 何 某

知 事 宛

- 備考 一、備考履歷書ハ縣廳交付分添付ノコト
- 二、給與セラル、遺族順位妻、未成年ノ子、夫、父、母、祖父祖母トス
- 三、扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フハ左ノ理由ニヨル
妻子、又ハ夫、婚姻シ、又ハ其ノ家ヲ去ルタルトキ、子女ニシテ成年ニ達シタルトキ

恩給受領手續

- 一、熊本市内在住者ハ第一號書式ノ領收證ヲ縣廳學務課へ提出ノコト
 - 二、他府縣在住者ハ第二號書式ノ檢閱報告ヲ縣學務課へ提出ノコト
 - 三、縣内郡部在住者ハ第二號書式ノ檢閱報告ヲ郡役所へ提出ノコト
- 第一號書式 (場形野紙)

領 收 證

印 鑑

一金 是ハ普通恩給(遺族扶助料)年額何圓ニ對スル大正 年 月 日 月 渡 分
右 領 收 候 也

仕拂命令者

熊本縣知事何某殿

元職名

市 町

番地 名

第二號書式 (場形野紙)

市町村立小學校 (公立實業補習學校) 教員(公立幼稚園保母)普通恩給(扶助料)證書檢閱報告

普通恩給(扶助料)年額 支給月 元職名(扶助料ナルトキハ故職氏) 受領者住所 同氏名

右證書本年何月何日檢閱済ニ付及報告候也

年 月 日 何府縣郡市町村長 何 某

診斷書

診斷書 (休退職ニ關スル教員診斷書様式)

住所

氏

年齢

一、病名

一、既往症

一、現在症

一、經過

一、診斷

一、豫後

一、治療法

右及診斷候也

年月日

住所

醫師

氏

名

印

死亡届

死亡届 (訓導死亡ニ付遺族ヨリ提出ノ死亡届)

熊本縣何郡市何小學校訓導

何

某

右者本月 日死亡候ニ付戸籍謄本相添へ此段及御届候也

疾病療治料給與願

知事宛

疾病療治料給與願

何

某

印

病氣ノ爲メ大正何年何月何日、退(休)職被命候ニ付テハ成規ニ依リ相當治療料御給與相成度別紙在職中ノ履歷書及退職當時ノ診斷書相添へ此段及請求候也

元職名

氏

名

印

備考 知事宛

- 一、履歷書認メ方注意事項ハ恩給請求書ニ全シ
- 一、退職休職後六十日以内ニ請求セサルトキハ權利消滅ス
- 一、郡市長ニ於テ本件進達ノ際ハ大正八年十月二日學第六七二七號通牒ノ各事項ノ具申ヲ要ス
- 一、給與セラル、病名左ノ如シ
- イ、肺結核

雜則教育費中
救濟使則
金規一第
十參照條

- ロ、結核性痔瘻(兒童ノ衛生上危險チ及ホス狀況ノモノ)
- ハ、腸結核(傳染ノ慮アリト認メタルモノ)
- ニ、喉頭結核
- ホ、結核性脊椎骨尖症(流注膿瘍ノ自開セシモノ)
- ヘ、癩病
- ト、頸線結核ニテ濃汁ノ分泌スルモノ
- チ、尋常性狼瘡(兒童ノ衛生上危險チ及ホス狀況ノモノニ限ル)
- リ、肺炎加答兒ニシテ結核菌ヲ認ムルモノ

在校届

第一様式 (一年現役兵條例施行細則第三條)

師範學校在校届

何師範學校第 部第 學年在 校ニ付及御届候也

年 月 日

本籍地 府縣郡市區町村字番地
本人 氏

名 氏
年月日生

市町村長宛

右在校ヲ證明ス
年 月 日

何師範學校長 氏

名 氏

一年現役資格届

第二様式 (一年現役兵條例施行細則第三條)

一年現役兵資格ニ關スル届

年 月 何師範學校第 部ヲ卒業(卒業スヘキ)ニ付一年現役兵ノ資格ヲ生シ(生スヘク)候條及御届候也

年 月 日

本籍地 府縣郡市區町村字番地
寄留地 府縣郡市區町村字番地
本人 氏

名 氏
年月日生

市町村長宛

右資格ヲ證明ス
年 月 日

何師範學校長 氏

名 氏

師範學校卒業届

第三様式 (一年現役兵條例施行細則第四條)

師範學校卒業届

何師範學校第 部在校中ノ爲一年現役兵入營延期中ノ處 年 月同校ヲ卒業(卒業スヘキ)ニ付及御届候也

年 月 日

本籍地 府縣郡市區町村字番地
寄留地 府縣郡市區町村字番地
本人 氏

名 氏

一年現役
連名簿

聯隊區司令官宛
右卒業ヲ證明ス
年 月 日

何師範學校長 氏

名 印

年月日生

一三六

第四様式 (一年現役兵條例施行細則第七條) 用紙美濃紙

何年一年現役兵身体検査受檢者連名簿

何師範學校

(何縣何郡何小學校)

摘要	入學年	師範學校及卒業年月日	本	籍	氏	名

- 一、入營年ハ一年現役兵トシテ入營スヘキ豫定ノ年ヲ記入スヘシ
- 二、卒業年月日ハ師範學校在學中ノ者ニアリテハ卒業豫定ノ期日ヲ記入スルモノトス
- 三、摘要欄ニハ教職ニアル者ハ其學校名第十八條ニ該リ前年検査ヲ受ケタル者ハ其事由等ヲ記入スルモノトス
- 四、第二十三條ニ依リ地方長官ヨリ師團長ニ差出スモノニ在リテハ地方長官ニ於テ本様式ニ準シ適宜調整スルモノトス

一年現役
連名簿

聯隊區司令官宛
右卒業ヲ證明ス
年 月 日

何師範學校長 氏

名 押

年月日生

一三六

第四様式 (一年現役兵條例施行細則第七條) 用紙美濃紙

何年一年現役兵身体検査受檢者連名簿

何師範學校

(何縣何郡何小學校)

摘要

入學年 師範學校及卒業年月日

本

籍

氏

名

- 一、入營年ハ一年現役兵トシテ入營スヘキ豫定ノ年ヲ記入スヘシ
- 二、卒業年月日ハ師範學校在學中ノ者ニアリテハ卒業豫定ノ期日ヲ記入スルモノトス
- 三、摘要欄ニハ教職ニアル者ハ其學校名第十八條ニ該リ前年検査ヲ受ケタル者ハ其事由等ヲ記入スルモノトス
- 四、第二十三條ニ依リ地方長官ヨリ師團長ニ差出スモノニ在リテハ地方長官ニ於テ本様式ニ準シ適宜調製スルモノトス

恩

給

恩給法 目次

第一章 總則	二三九
第二章 公務員	二四四
第三章 遺族	二六二
附則	二六六
恩給法施行令	二八四
恩給給與規則	三二三
第一章 恩給ノ請求	三二三
第二章 恩給ノ裁定	三二八
第三章 恩給ノ支給	三三〇
第四章 異動通知	三三〇
第五章 恩給證書ノ還付及再交付	三三一
第六章 具申及裁決	三三二
附則	三三三

恩給法

(大正十二年四月十三日)
法律第四十八號

第一章 總則

- 第一條 公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ
- 普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス
- 第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル
- 第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
- 第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
- 第六條 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス
- 前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第

四十二條 第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條 時効期間滿了前二十日以内ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ

爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨礙ノ止ミタル日ヨリ二十日以内ハ時効完成セス

時効期間滿了前六月内ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁

治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトナ

得ルニ至リタル日ヨリ六月内ハ時効完成セス

時効期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効

期間内ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間内ニ到達シタルモノト看做

ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ

同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セララルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選

擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ

傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セララルヘ

キ場合ニ於テ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給

ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一二該當スルトキハ其

ノ權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノ

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナ

キトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條 恩給ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス恩給ヲ受ク

ルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合

ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外内閣恩給局長之

ヲ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分

後一年内ニ内閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ内閣總理大臣ニ訴願シ

又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 内閣總理大臣及内閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條 内閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査

會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 二 軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス
- 三 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス
- 四 前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 五 警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス
- 六 待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號又ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ在職年

中ニ第三號ニ掲クルハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者又ハ其ノ遺族以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第四號若ハ第五號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ

遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ
前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一二相當スル金額ヲ交付ス

公務員

第二章 公務員

第一節 通則

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條 文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條 軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者
- 二 國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生
- 二 勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條 教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
- 二 府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條 警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一 警部補、巡查、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛

二 看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
三 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司應職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
- 二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手、感化院職員及矯正院職員
- 三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
- 四 前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
- 二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
- 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

五 待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
- 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
- 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
- 五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス
準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地境內ノ勤務又ハ外國ノ鎮戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從事シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一 戰地ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二 戰地外ニ在リテハ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月中
前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、職務ノ範圍並戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 公務員外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地域内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國鎮戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月中ヲ加算ス

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條 潜水艦乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上上勤務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其

ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナル者ニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス
一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルキコトナニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

五 宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキ

モノ
第四十二條 左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一 宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二 準軍人ノ在職年月數

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條ノ規定ハ前條第一項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラレヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ條給トハ本條及之ニ準スヘキモノヲ謂フ
本條ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラレル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス
公務員公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十七條 前條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

- 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勅中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
- 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
- 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス
前項ノ期間満了ノ六月前迄傷疾疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依リ恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二 再就職後公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三 再就職後公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷疾又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷疾又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一 後ノ傷疾又ハ疾病カ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ基因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後

ノ傷疾又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷疾又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依リ增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二 後ノ傷疾又ハ疾病カ普通公務ニ基因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差

額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差

額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前三條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規定ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一二該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ准軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ増加恩給ニ付之ヲ準用ス

恩給金額

第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一二相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス

第二節 恩給金額

第六十條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一二相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲモ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退給當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十一條 軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ規定ハ準軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ軍人ノ階等ニ應シ別表第一號表ノ十一年ノ額ト十二年ノ額トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ之ニ加給ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス
陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十一年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給額ハ在職年十一年ノ者ニ給スヘキ普通恩

給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額ト

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十年以上ノモトキハ其ノ勤續在職年中十年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ

退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 下士以下ノ軍人公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年內ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 下士以上ノ軍人在職十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條 教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條 警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條 待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一月籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ當時其ノ月籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二 普通恩給ヲ給セララルル者死亡シタルトキ
前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス夫又ハ成年ノ子ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準ス

ヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條

扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ該當次順者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

- 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 妻子又ハ夫婚姻シタルトキ
- 三 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ

子ニ付其ノ事情止ミタルトキ
第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス
前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
下士以上ノ軍人在職年一年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附則

附則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 官吏恩給法
- 一 官吏遺族扶助法
- 一 軍人恩給法
- 一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法
- 一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
- 一 明治二十四年法律第四號
- 一 明治二十九年法律第十三號
- 一 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補助則
- 一 明治二十九年法律第七十八號
- 一 明治三十三年法律第七十五號
- 一 明治三十三年法律第七十六號
- 一 明治三十五年法律第七十七號
- 一 明治三十五年法律第二十九號
- 一 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
- 一 明治四十年法律第四十九號
- 一 明治四十一年法律第三十五號
- 一 明治四十三年法律第三十號
- 一 明治四十四年法律第六十一號
- 一 明治四十四年法律第六十七號
- 一 明治四十五年法律第十二號
- 一 明治四十五年法律第三十二號
- 一 大正十年法律第三十號
- 一 大正十年法律第三十五號
- 一 大正十一年法律第十八號
- 一 大正十一年法律第三十八號
- 一 大正十一年法律第九十四號
- 一 大正十一年法律第九十九號
- 一 明治二十三年勅令第九十八號
- 一 明治二十五年勅令第三十二號
- 一 明治二十五年勅令第三十三號
- 一 明治二十五年勅令第三十八號
- 一 明治三十二年勅令第九十六號
- 一 明治三十八年勅令第二百二十九號
- 一 明治四十年勅令第八十八號

一 明治四十年勅令第百八十九號
 一 明治四十五年勅令第七十號
 一 大正十年勅令第百六十八號
 一 大正十一年勅令第百八十四號
 一 明治十五年第四十一號達巡查看守給助例
 一 明治十七年第一號達官吏恩給令
 一 明治四十四年勅令第七十一號
 一 大正七年勅令第六十二號
 一 大正十一年勅令第八十七號
 一 明治九年第九十九號達陸軍恩給令
 一 明治十六年第三十八號達海軍恩給令

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法
 準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
 從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法
 ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘ
 キモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族
 種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム
 從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法
 ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル給與恩給中最近キ性質ヲ有スルモ
 ノニ依ル

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給退職料、遺
 族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其

ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル
 請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退職料、遺族
 扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ
 他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具中、訴願又ハ行政
 訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依リ内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申
 ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中
 ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第
 十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩
 給基金ヲ備フルコト得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其
 ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺
 族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利
 子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之

チ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ補充スヘシ
恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本
法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職年限ヲ本法施行前ノ
在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年
月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ
所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間
引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二
年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタル
トキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム
第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ

南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ
適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際
迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在
職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際
迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法
ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施
行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タ
ル恩給ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令
ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本
法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ給スヘキ者ニ付之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依
ル

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後

南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ
適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際
迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在
職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際
迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法
ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施
行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タ
ル恩給ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令
ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本
法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ公務員ニ給スヘキ者ニ付之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依
ル

退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル
 第九十九條 第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ
 付テハ當分ノ内之ニ適用セス其ノ退職料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ
 教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此
 ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他ノ教育
 事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依
 ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲グル在職年トノ間ニ付亦同シ但
 シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務
 ニ從事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル
 場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ文官ト
 シテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官ノ其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシ
 テノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第百條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキ
 モノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス
 前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケル事ヲ得ル者ノ權

利ヲ妨グルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ
 之ヲ受ケルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法
 ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケル
 ノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケサシ軍人ノ遺族本法施
 行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給
 ハ之ヲ請求ヲ俟タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ増額セラレタルモノト看做ス

第百一條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退職料、遺族扶助料
 其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料
 ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助
 料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス

第百二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職又
 ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、
 貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令
 ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者
 ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡查又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第百三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百四條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(別表)

第一號表

(本表ハ組版ノ都合ニ依リ之ヲ分割シ准士官以下ヲ第一號表ノ續トス)

在職階等	年數	將官及相當官							
		親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等
二十一年	二	三〇〇〇〇	二六四五〇	二二二〇〇	一八六〇〇	一五三〇〇	一〇八〇〇	七八〇〇	五六七〇
二十二年	三	三〇〇〇〇	二六四五〇	二二二〇〇	一八六〇〇	一五三〇〇	一〇八〇〇	七八〇〇	五六七〇
二十三年	四	二九〇〇〇	二五五〇〇	二一三〇〇	一七九〇〇	一四七〇〇	一〇三〇〇	七六〇〇	五五〇〇
二十四年	五	二八〇〇〇	二四四〇〇	二〇二〇〇	一七〇〇〇	一三九〇〇	九八〇〇	七二〇〇	五三〇〇
二十五年	六	二七〇〇〇	二三三〇〇	一九一〇〇	一六二〇〇	一三二〇〇	九二〇〇	六九〇〇	五二〇〇
二十六年	七	二六〇〇〇	二二二〇〇	一八〇〇〇	一五三〇〇	一二五〇〇	八五〇〇	六四〇〇	五〇〇〇
二十七年	八	二五〇〇〇	二一一〇〇	一七〇〇〇	一四六〇〇	一二〇〇〇	八二〇〇	六二〇〇	四九〇〇
二十八年	九	二四〇〇〇	二〇〇〇〇	一六〇〇〇	一三九〇〇	一一〇〇〇	七六〇〇	五七〇〇	四六〇〇
二十九年	十	二三〇〇〇	一九〇〇〇	一五〇〇〇	一二〇〇〇	九〇〇〇	六五〇〇	四九〇〇	四三〇〇
三十年	十一	二二〇〇〇	一八〇〇〇	一四〇〇〇	一一〇〇〇	八〇〇〇	五九〇〇	四四〇〇	四〇〇〇

在職年數	階等	准士官				兵卒			
		判	任	下	官	士	海軍	陸軍	陸軍
十一年	一等	四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
十一年	二等	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
十一年	三等	二〇〇〇	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
十一年	四等	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
十一年	一等兵	二〇〇〇	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
十一年	二等兵	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
十一年	三等兵	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
十一年	四等兵	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

(第一號表ノ續)

五十九年	四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
四十八年	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
四十七年	二〇〇〇	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
四十六年	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
四十五年	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

四十四年	四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
四十四年	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
四十四年	二〇〇〇	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
四十四年	一〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
四十四年	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

五十四四四四四四四四三
十十十十十十十十十
十九八七六五四三二一十九
年年年年年年年年年年

七七六六六六六六六六
二〇九九八八七六五五
四四四四四四四四四

五五五五五五五五五五
五五五五五五五五五五
四四四四四四四四四

五五五五五五五五五五
五五五五五五五五五五
四四四四四四四四四

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三三
十十十十十十十十十十
八七六五四三二一十九八七
年年年年年年年年年年

六六六五五五五五五五
一〇〇九九八七六五五
四四四四四四四四四

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

四四四四四四四四四四
四四四四四四四四四四
三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三
二二二二二二二二二二

第二號表

備考	號	乙	號	甲	傷病原因		階等
					原因	階等	
特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス	務公通普	務公通普	務公通普	務公通普	戰又戰	戰又戰	親任
	第六項	第五項	第四項	第三項	第二項	第一項	親任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
	八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任
八〇〇〇	七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	奏任	

二八〇

第三號表

號	甲	傷病原因	症狀等差	下士	兵卒	號	乙	傷病原因	症狀等差	下士	兵卒								
												務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰	務公キヘス準ニ關戰ハ又關戰
第十款	第九款	第八款	第七款	第六款	第五款	第四款	第三款	第二款	第一款	第十款	第九款	第八款	第七款	第六款	第五款	第四款	第三款	第二款	第一款
一六五	三三〇	四九五	六六〇	八二五	九九〇	一一五〇	一三〇〇	一四五〇	一六〇〇	一七五〇	一九〇〇	二〇五〇	二二〇〇	二三五〇	二五〇〇	二六五〇	二八〇〇	二九五〇	三〇〇〇
一五〇	三〇〇	四五〇	六〇〇	七五〇	九〇〇	一〇五〇	一二〇〇	一三五〇	一五〇〇	一六五〇	一八〇〇	一九五〇	二一〇〇	二二五〇	二四〇〇	二五五〇	二七〇〇	二八五〇	三〇〇〇

二八一

皇清光緒

第四號表ノ續

在職年數	階	
	准士官	下士官
一	一 一〇〇	一 七二
二	二 二〇〇	二 一四四
三	三 三〇〇	三 二一六
四	四 四〇〇	四 二八八
五	五 五〇〇	五 三六〇
六	六 六〇〇	六 四三二
七	七 七〇〇	七 五〇四
八	八 八〇〇	八 五七六
九	九 九〇〇	九 六四八
十	一〇 一〇〇〇	一〇 七二〇

二八三

第四號表

(本表モ亦之ヲ分割シ准士官以下ヲ第四號表ノ續トシ組版セリ)

在職年數	階	
	將官及相當官	佐尉官及相當官
一	親任 一、三三三	一 一、三三三
二	一等 二、八〇〇	二 一、六六六
三	二等 三、二五〇	三 一、〇八三
四	三等 三、七〇〇	四 七八四
五	四等 四、一五〇	五 五八五
六	五等 四、六〇〇	六 三八六
七	六等 五、〇五〇	七 一八七
八	七等 五、五〇〇	八 九八
九	八等 五、九五〇	九 九
十	九等 六、四〇〇	十 〇

二八二

恩給法施行令

(大正十二年八月十六日 勅令第三百六十七號)

第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲サザリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣

三 在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス
朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州(南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ)又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員(陸海軍ニ屬スルモノ)及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並其ノ遺族ノ恩給ハ道知事)、臺灣ニ在リテハ臺灣總督(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ掲グル待遇職員(國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク)及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事(警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監)、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺

灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキニ種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做ス）ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受ケヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前三項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一 郡判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒並陸軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 道路管理職員制ニ依ル職員
- 二 地方土木職員制ニ依ル職員
- 三 地方産業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
- 四 地方測候所職員制ニ依ル職員
- 五 防疫職員制ニ依ル職員
- 六 港務部設置制ニ依ル職員
- 七 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
- 八 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員
- 九 癩療養所職員制ニ依ル職員
- 十 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木又ハ産業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
- 十一 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衛生、産業又ハ物産検査ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員
- 第十二條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ
 - 一 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 - 二 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 - 三 鐵道醫
 - 四 北海道廳事業手

- 五 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師並臺灣ニ於ケル監獄醫及警察醫
- 六 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫
- 第十二條 恩給法第三十二條第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 - 一 戰爭開始後戦地ニ到リタル者ニ付テハ戦地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
 - 二 戰爭中戦地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到着シタル月迄加算ス
- 前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ
- 恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 - 一 動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
 - 二 戰爭開始後職務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
- 前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎮戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎮戍ノ爲内國ヲ出發シタルトキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎮戍ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルトキハ内國歸著ノ月迄加算ス

第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

- 一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乗シ特ニ危險ト認ムル航空試験ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半
- 二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乗シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月
- 三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到着シタル月ヨリ、其ノ他ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ

就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

- 一 有毒ノ瓦斯若クハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
- 二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ水雷艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸氣機關車乗員トシテノ現業勤務
- 三 炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務
- 四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ起ユル航海ヲ謂フ

第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第二十條 恩給法第四十四條ノ本條ニ準スヘキモノトハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 年功ニ因ル加俸
- 二 府縣知事ノ指定地加俸
- 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教ノ職務俸
- 四 第一號ニ掲グルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸
- 五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

- 一 マラリア(黒水熱ヲ含ム)
- 二 猩紅熱
- 三 コレラ
- 四 脚氣(戰地ニ限ル)
- 五 發疹チフス
- 六 腸チフス

七 パラチフス

八 ハスト

九 回歸熱

十 赤痢

十一 流行性腦脊髄膜炎

十二 流行性感胃

十三 肺ダストマ病

十四 トリバノゾーム病

十五 ワイルス氏病

十六 カラアザール

十七 黃熱

第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷疾

- 一 疾病トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
 - 一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置者ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病
 - 二 暴徒鎮壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊蕃人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病
 - 三 外國ノ交戦若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戦又ハ擾亂ニ因ル傷疾疾病
 - 四 航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潜水艦ニ乘シ潜航勤務中ノ不可抗力ニ因ル傷疾疾病
 - 五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ施行シタル爲加ヘラレタル傷疾疾病

六 職務ヲ以テコレヲ又ハベストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲權
タル該疾病

第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七

特別項症

- 一 常ニ就床ヲ要シ具複雜ナル介護ヲ要スルモノ
- 二 重大ナル精神障礙ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ
- 三 身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

- 一 複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
- 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
- 三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ
- 四 兩眼ノ視力カ視標〇・一チ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

- 一 精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 兩眼ノ視力カ視標〇・一チ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四 兩耳全ク聾シタルモノ

五 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

- 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩耳全ク失ヒタルモノ
- 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
- 五 兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

- 一 泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一チ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

- 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

- 二 頭部、顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
- 三 一眼ノ視力カ視標〇・一チ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

- 一 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二 一眼ノ視力カ視標〇・一チ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷疾疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス
 視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬
 國共通視力標ニ依ル

第二十五條 準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス
- 二 國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等階級ニ依ル

第二十六條 準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
- 二 前號ニ掲ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

第三 前二號ニ掲ケサル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵卒ニ準ス
 第二十七條 教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區
 分ニ依ル

- 一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等階級又ハ待遇官等階級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等階級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等階級ニ依ル
- 二 準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等階級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス
 但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等階級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等階級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等階級ニ依ル

第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲ケルモノヲ謂フ

- 一 師範學校
- 二 高等女學校
- 三 專門學校令ニ依ラサル實業學校(實業補習學校ヲ除ク)
- 四 中學校又ハ前二號ニ掲ケル學校ニ準スヘキ學校

五 實業補習學校教員養成所

六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲クルモノ

ニ準スヘキモノ

七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲クル學校ニ準スヘキモノ

第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ十款ト

第一款症

一 一側聾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一眼ノ視力カ視標〇・一チ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三 一耳聾シタルモノ

四 一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

一 一耳ノ聽力カ耳殻ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

二 一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三款症

一 一眼ノ視力カ視標〇・一チ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二 一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ

三 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

二 一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

四 一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第五款症

一 一眼ノ視力カ〇・一二滿タサルモノ

二 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ

三 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第六款症

一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

第七款症

一 一眼ノ視力カ〇・一二滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ四十センチメートル以上ニテハ呟語ヲ解シ得サルモノ

三 一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第八款症

- 一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第九款症

- 一 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ
- 二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ叫語ヲ解シ得サルモノ
- 三 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第十款症

- 一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
 - 二 前款ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ
- 第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス
- 第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附ス
ヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス
- 第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ増加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル
- 第三十四條 恩給法第九十九條ノ教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
- 一 官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員

二 文部省官吏

- 三 教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏
 - 四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ
 - 五 教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏
- 第三十五條 廢官、廢職、廢廳、廢校又ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勲績ト看做ス
- 第三十六條 恩給法第一百一條ノ規定ニ依ル増額ハ左ノ區分ニ依ル
- 一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給力大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ増加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
 - 二 軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

三 増加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等並別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ増加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

四 第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ増加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ増額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勳績ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條 恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ増額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ増加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附 則

第三十八條 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一 明治二十四年勅令第二百四十八號 一 明治二十七年勅令第五十二號

第一號表

一 明治二十七年勅令第八十一號 一 明治二十七年勅令第四百四十五號

一 明治三十一年勅令第二百四十四號 一 明治三十二年勅令第二百一號

一 明治三十三年勅令第七十三號 一 明治三十三年勅令第四百四號

一 巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令 一 明治三十四年勅令第四百五號

一 明治三十五年勅令第五百五十七號 一 明治四十一年勅令第三百三十七號

一 明治四十四年勅令第二百二十七號 一 明治四十四年勅令第七十號

一 大正六年勅令第二百四十一號 一 大正六年勅令第二百四十二號

一 大正九年勅令第三百二十三號 一 明治十八年第十五號達達官吏恩給令附則

一 明治十八年第十六號達達文官傷疾疾病等差例 一 明治十八年第四十號達達陸軍恩給令則附

(別表)

下	判	任	官	士	兵	卒
二	等	三	等	四	等	
七五六	円	六一二	円	四六八	円	四一四

準軍人ニ付テハ其ノ階等ニ依リ右表ヲ準用ス
 第二號表
 (一) 三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

内地	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	其ノ他
北海道 國後郡 安渡郡 幌筈島 占守島	京畿道 富川郡 木德島 忠清南道 瑞山郡 全羅南道 務安郡 七發島 小黒山 莞島郡 魚籠島	臺北州 基隆郡 基隆街ノ内彭佳嶼 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、 四方林、清水、牛開及松羅溪 駐在警察官管轄區域ヲ除キタ 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中大元山 駐在警察官管轄區域ヲ除キタ 文山郡 街庄ヲ置カサル蕃地中タンヒ ア、ウライ、ラハウ及阿玉駐 在警察官管轄區域ヲ除キタル	散江郡 名好郡 名好村 大字安 呂西能 呂岬	各群島 巴拉オ列 島中コロ サイバ 島及ヤツ プ島ヲ除 (ク)	北樺太 ハトロバ ウロフス クコロイ ニコライ ウスク 龍井 百草街 局子溝 間島頭 滿島道 通龍化 赤海峰

内地	朝鮮	臺灣	樺太	南洋群島	其ノ他
港門島 珍島郡 竹島 下島島 慶尙北道 鬱陵島 黄海道 長淵郡 小青島 松禾郡 西島 平安南道 寧遠郡 平安北道 熙川郡 鐵山郡 大和島 朔州郡 昌成郡 碧潼郡 楚山郡 渭原郡	新残部 大溪郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八結、 ケイフイ、カウシヤウ、竹頭 角、水流東、角板山、合胎坪 ウライ、ヨウハブ、シツケ イ、カウホウ、ラハウ、及斷崖 駐在警察官管轄區域ヲ除キタ 竹東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中内灣、 カラバイ、メカララ、内横屏 山、錦屏山、ラハウ、シラツ ク、メホマン、シハバ、シマ イ、メホマン、シハバ、シマ 在警察官管轄區域ヲ除キタル 大湖郡 街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力 汶水、高熊峠及細道邦駐在警 官管轄區域ヲ除キタル 残部	宜沙市 重慶市 成都 外蒙 新疆 西貢 盤谷 新嘉坡 マニラ ダラヴ スダ パラ アグ アカ 蘭カ カル コロン タボ 孟 ド イ	宜沙市 重慶市 成都 外蒙 新疆 西貢 盤谷 新嘉坡 マニラ ダラヴ スダ パラ アグ アカ 蘭カ カル コロン タボ 孟 ド イ	南洋群島 其ノ他	其ノ他

江界郡	東勢郡	臺中州
慈城郡	街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑	
厚昌郡	稍來坪、白毛及中坑坪駐在警	
成鏡南道	察官管轄區域ヲ除キタル殘部	
新興郡	新高郡	
長津郡	街庄ヲ置カサル蕃地全部	
三水郡	新高郡	
甲山郡	街庄ヲ置カサル蕃地全部	
成鏡北道	臺南州	
茂山郡	嘉義郡	
會寧郡	街庄ヲ置カサル蕃地全部	
鐘城郡	高雄州	
慶源郡	旗山郡	
慶興郡	街庄ヲ置カサル蕃地全部	
右ニ掲ク	屏東郡	
ル地方ニ	街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、	
ト雖鐵道	サンテイモン、バクヒヨウ、	
ト雖鐵道	マカザヤザヤ及カサギザン駐	
ト雖鐵道	在警察官管轄區域ヲ除キタル	
ト雖鐵道	殘部	
ト雖鐵道	潮州郡	

ハヴ
ナ
マ
里
ハ
マ
バ
ウ
ル
ト

内地ニ在
クハ之ヲ

街庄ヲ置カサル蕃地中カヒヤ
ン、アマロン、ホンガリイ、
スホン、歸化門、炭頭、内獅
頭、獅子頭及四重溪駐在警察
官管轄區域ヲ除キタル殘部
恒春郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部
東港郡
琉球郡
臺東廳
臺東廳管内中臺東街ヨリ里壠
ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地
域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタ
ル殘部
花蓮港廳
花蓮港廳管内中花蓮港街ヨリ
玉里ニ至ル鐵道沿線二里以
ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除
キタル殘部

(11) 二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

第三號表		地名	流行病
朝	八重山列島	<p>(城津) 六龜庄(大字新威ヲ除ク)</p> <p>而ヲ除 潮州郡</p> <p>富寧郡 枋山庄</p> <p>右ニ掲ク 恒春郡</p> <p>ル地方ニ 街庄ヲ置キタル地域全部</p> <p>屬スル地 澎湖郡</p> <p>ト雖鐵道 臺東廳</p> <p>停車場ヨリ里端ニ至ル鐵道沿</p> <p>リ五里以內ノ地域及其ノ以東</p> <p>内ニ在ル 花蓮港</p> <p>地ハ之ヲ 花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道</p> <p>除ク</p>	<p>猩紅熱、腸チフス、バラチフス、赤痢、肺ダストマ病</p>

野、同	ナ除ク)	興、街庄ヲ置カサル蕃地中八
村大字	龍川郡	卦力、汶水、高熊峠、細道邦
西阿木	江原道	駐在警察官管轄區域
名西	麟蹄郡	臺中州
阿木名	楊口郡	東勢郡
沖繩縣	三陟郡	街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑
大東島	蔚珍郡	稍來坪、白毛、中坑坪駐在警
伊江島	旌善郡	察官管轄區域
宮古島	平昌郡	能高郡
列島八	寧越郡	國姓庄中 大字龜子頭、柑子林
重山列	伊川郡	臺南州
島	成鏡南	嘉義郡
	道	大埔庄、小梅庄中 大字生毛樹
	北青郡	新化郡
	利原郡	南化庄(大字北寮ヲ除ク)
	端川郡	高雄州
	成鏡北	旗山郡
	道	甲仙庄
	鏡城郡	屏東郡
	明川郡	
	吉州郡	
	城津郡	

第五號表

軍人 恩給法	從階 前等 法		
	親等一 等二 等三 等四 等五 等六 等七 等八	高等官	將官及 佐尉官及 准士官
一等 二等 三等 四等	判任官	准士官 下士官	判任官
兵一海軍 兵二海軍 兵三海軍 兵四海軍 卒五海軍	兵上等陸軍 兵一等陸軍 兵二等陸軍	兵	兵一海軍 兵二海軍 兵三海軍 兵四海軍 卒陸軍二等
			恩給法

陸軍 官及 傷疾 扶助 死者 ノヒ ノ者 立者 其家 扶助 則概	陸軍 恩給 令
大將 中將 少將 大佐 中佐 少佐 大尉 中尉 少尉 准士官 曹長 軍曹 伍長	大將 中將 少將 大佐 中佐 少佐 大尉 中尉 少尉 准士官 曹長 軍曹 伍長
兵卒	兵上等 憲兵 會計 護士 看馬 看生
	卒一等 卒二等

海軍恩給令	海軍退隱令
將大	將大
將中	將中
官當相同將少	官當相同將少
官當相同佐大	官當相同佐大
官當相同佐中	官當相同佐中
官當相同佐少	官當相同佐少
官當相同尉大	官當相同尉大
官當相同尉中	官當相同尉中
官當相同尉少	官當相同尉少
官准士	官准士
士機關	官相同兵一等
副關	官當相同兵二等
樂次水兵	官當相同兵三等
手長	官當相同兵三等
屬九海長火長機舟大	官當相同兵三等
等軍屬夫屬關長端	卒一等
水一等	卒二等
水二等	卒三等
鍛三等	卒四等
水四等	卒五等
夫若一兵若一	卒五等
火等水等	

備考

一 大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

一 大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一 名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

一 本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵卒等級ノ例ニ依ル

第六號表

官吏恩給法施行規則 第十二條	官吏恩給法 第十四條 第二項	官吏恩給法 第十五條	從前	傷病原因	法	給	法
項一	特別項一	特別項一	甲	號	恩	給	法
項二	特別項二	特別項二	乙	號	給	法	
項三	特別項三	特別項三					
項四	特別項四	特別項四					
項五	特別項五	特別項五					
項六	特別項六	特別項六					
項一	症項一	症項一					
項二	症項二	症項二					
項三	症項三	症項三					
項四	症項四	症項四					
項五	症項五	症項五					
項六	症項六	症項六					

第三號表甲號	軍人恩給法第三號表乙號	第十條第二項	明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則	陸軍武官傷痍扶助及死亡者祭葬並ニ其家族扶助概則	明治九年太政官達陸軍恩給令
項一第		症項ヲ定メス		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者
項二第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項三第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項四第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項五第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項六第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項一第	項一第	傷痍一等		戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項二第	項二第	傷痍二等		戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項三第	項三第			戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者

第三號表甲號	軍人恩給法第三號表乙號	第十條第二項	明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則	陸軍武官傷痍扶助及死亡者祭葬並ニ其家族扶助概則	明治九年太政官達陸軍恩給令
項一第		症項ヲ定メス		戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者
項二第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項三第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項四第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項五第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項六第				戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項一第	項一第	傷痍一等		戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項二第	項二第	傷痍二等		戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
項三第	項三第			戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者

恩給給與規則

(大正十二年八月二十一日)
勅令第三百六十九號

第一章 恩給ノ請求

- 第一條 普通恩給又ハ増加恩給ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書又ハ増加恩給請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 在職中ノ履歷書
 - 二 戶籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)
- 増加恩給請求書ニハ前項各號ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 傷疾疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類(例ハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書)等
 - 二 症狀ノ經過ヲ記載シタル書類
 - 三 請求當時ニ於ケル診斷書
- 恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ掲クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ
- 第三條 恩給法第五十條第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ掲クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

照機式

備考

一 本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一 本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

三	四	四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

四	五	五	六	七	八	〇	一	二	三	五	六	七	八	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條 一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ掲ケル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員ハ公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條 恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員ノ在職中ノ履歷書

二 請求者ノ戸籍謄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ掲ケ

照樣式參

照樣式參

ル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條 恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員方既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

二 公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ掲ケル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲ケル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務員ニ因ル傷疾疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依リテ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲ケル書類並死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條 恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前扶助料權者カ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二 前扶助料權者ノ扶助料證書

三 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル

モノ)

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條 恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條 恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一 扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書
二 請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條 恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ

規定ニ依リ請求者ノ戶籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條 恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムルトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬屬ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條 恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

二 公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十六條 恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員ノ在職中ノ履歷書
二 請求者ノ戶籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十七條 恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求

書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添付スルコトヲ要スヘキ書類
- 二 請求者ノ戶籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條 一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一

項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添付スヘキ場合ニ於テ死亡失其ノ他ノ事由ニ因

リ之ヲ添付スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 經由廳力廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章 恩給ノ裁定

恩給ノ裁定

第二十二條 經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナ

キコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歴書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條 裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求

書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金額タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但

シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十四條 權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添付シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條 裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルト

キハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條 裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ

恩給ノ支給

命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章 恩給ノ支給

第二十七條 恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條 年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テハ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知りタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

異動通知

第四章 異動通知

第三十條 普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條 年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(刑ノ執行

恩給證書ノ返還及再交付

猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキ(除ク)又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條 年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十四條 第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳ト力異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ届出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第五章 恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條 年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十六條 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條 恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ効力ヲ失フ
 亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ
 第三十八條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戶籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

具申及裁決

第六章 具申及裁決

第三十九條 恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第四十條 具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ
 一 具申者ノ氏名、年齢及住所
 二 對手者タル行政廳
 三 具申ノ趣旨及理由
 第四十一條 具申カ内閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルト

附則

キハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取りタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ
 第四十二條 内閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得
 第四十三條 裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

錄

關係法規等索引

御聖影並勅語、詔書
 御聖影並勅語贈本奉置方
 御聖影並勅語贈本奉置ニ關スル件
 聖影複寫ニ關スル件
 聖影ヲ奉戴シタル小學校正教員轉任解職ノト
 キ後任者具申ノ件
 聖影並聖影複寫奉置所ニ關スル件
 教育ニ關スル勅語
 教育ニ關スル勅語贈本頒布ニ付文部大臣訓示
 戊申詔書
 普通教育ニ就キテノ御沙汰ニ對スル心得
 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方
 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方
 地方學事通則
 小學校令

明二四、一一、一七、省訓四
 明二四、一二、二二、縣訓二五三
 明二五、七、二五、縣訓一五三
 明二六、七、二二、縣訓七七
 明二六、一二、四、縣訓一〇〇
 明二三、一〇、三〇
 明二三、一〇、三一、省訓八
 明四一、一〇、一三
 明四四、一一、三〇、省訓一八
 明四三、八、二六、省訓一八
 明四四、八、一、縣訓甲六一
 明二三、一〇、三三、法八九
 明三三、八、二〇、勅三四四

小學校令施行規則
 小學校令施行規程
 小學校教員心得
 小學校教育成績規程
 普通教育ニ關スル文部大臣ノ意見
 小學校令施行規則中教授用假名及字体字音假名遣並漢字ニ關スル規定削除ノ趣旨
 小學校規則標準
 市町村ノ廢置分合等ニ依リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務委託ノ存續ニ關スル規定
 市町村廢置處分等ニ依リ消滅スヘキ學校ノ件
 學校設備ニ關スル注意
 寄附財産ヲ以テ設置セル官立公立學校ニ關スル規定
 在外指定學校ニ關スル規定
 朝鮮小學校兒童及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規定
 關東州小學校兒童及卒業者ノ他ノ學校へ入學

- 明三三、八、二一、省令一四
- 大二、二、一三、縣令五
- 明一四、六、一八、省達一九
- 明三八、六、二一、省令一一
- 明二四、一、一七、省訓一
- 明四一、九、七、省訓一〇
- 明三四、四、四、縣訓甲三七
- 明三四、一〇、二六、勅一九七
- 明三四、一、二、二四、縣訓七三
- 明四二、九、四、省訓一一
- 明三三、三、三一、勅一三六
- 明三八、一、一、八、省令二〇
- 明四五、五、三一、省令一二
- 明四〇、五、一四、省令一五

轉學ニ關スル規定
 市町村義務教育費國庫負擔法
 市町村立尋常小學校教員數並就學兒童數調査報告ノ件
 市町村義務教育費國庫負擔法第四條ニヨル申報ノ件
 盲啞學校令
 盲啞學校規程
 教育資金
 教育基金令特別會計法
 教育基金令
 教育基金令施行規程
 教育資金使用ニ關スル規則
 設備
 學校ノ設備ニ關スル件
 小學校理科設備標準
 小學校ニ備フヘキ圖書器械器具等ノ件
 名稱、待遇、資格、檢定

- 大一二、三、二八、法二〇
- 大九、五、二一、縣訓二九
- 大一一、一一、三〇、學六九〇五
- 大一二、八、二七、勅三七五
- 大一二、八、二九、省令三四
- 明三二、三、二二、法八〇
- 明三二、一、二二、勅四三五
- 明三六、三、三一、省令六〇
- 明三三、六、九、縣令四〇
- 明四二、九、四、省訓一一
- 大一一、四、二二、縣訓三一
- 明三四、一、二、二五、縣訓甲一九

市町村立小學校長教員ノ名稱待遇
市町村立幼稚園長及保姆待遇規程
師範學校及市町村立小學校職員ヲ文官ト同一待遇方

小學校長及教員待遇ノ件

學校職員席次

小學校教員試驗檢定學科目

小學校教員檢定試驗受験者心得

小學校教員無試驗檢定內規

檢定手数料納入方

小學校教員檢定試驗ノ證明書ヲ有シ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ノ證明書ノ効力

■任免、賞罰、服務

公立學校職員ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トノ間ノ轉任ニ關スル規定

市町村立小學校及實業補習學校教員休職事故止届出ノ件

公立、私立實業補習學校教員採用解職並其制

明二四、一一、一七、勅二一八
明四二、一二、一〇、勅三三五
明二四、一一、一七、省訓六

明四四、一一、一四、縣訓甲七六
明二六、六、九、縣訓甲七六

大一一〇、五、五、縣告一九〇

明二九、六、五、縣告一一三

大一一、九、二六、學五六四五
明二五、五、二七、縣訓一二三
明三七、一二、二一、省令二二

明三二、一二、二〇、勅四五六

明三八、一二、一〇、縣訓甲三八

大一一〇、五、六、縣令三六

大一一〇、五、六、縣訓三三

限ニ關スル規定

市町村立小學校訓導並實業補習學校教諭助教諭ニシテ傷疾疾病等ニ因リ退職シタル者ノ任用ニ關スル件

■俸給、旅費

小學校教員俸給ニ關スル件

専科教員及補助教授スル本科准教員ノ俸給額ノ件

一年現役小學校教員ニ關シ注意スヘキ事項

■恩給、加俸、諸給

恩給法

恩給法施行令

恩給給與規則

市町村立小學校教員恩給審査規程

退隱料差額停止ニ關スル件

市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小

市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小

市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小

市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小

大一一〇、五、六、縣訓三三

明三〇、一、四、勅二

明三〇、一、二六、縣訓甲七

大一一〇、一二、一八、學七四一三

大一一、四、一三、法四八

大一一、八、一六、勅三六七

大一一、八、二一、勅三六九

大一一〇、四、一八、勅一〇九

大一一、九、一四、學三九六五

明二七、二、一〇、省令三

學校教員ニ任セラル、モノ、勤續ニ關スル規定
 府縣小學校教員恩給基金管理規則
 小學校教員恩給國庫給與金豫算調書式
 市町村立小學校教育費國庫補助法
 市町村立小學校教育費補助ノ爲北海道地方費及府縣費支出ニ關スル規定
 市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程
 市町村立小學校教員住宅費補助規程
 教員住宅補助申請ニ關スル件
 市町村立小學校教育費國庫補助法第三條小學校本科正教員數調査方ノ件
 市町村立小學校教員加俸令
 市町村立小學校教員加俸給與規程
 僻陬地市町村立小學校指定ノ件
 市町村立小學校教員加俸令改正ノ要旨
 一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法
 一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行規

明二四、一〇、九、省令七
 明三二、五、一八、省訓六
 明三三、三、一六、法六三
 明四〇、五、二七、勅二一七
 明四〇、九、二六、省令三〇
 明四一、三、一九、縣告一二三
 大一二、四、五、學一八五二
 明四二、三、一八、省令九
 明三三、三、三一、勅一三三
 明四五、二、二九、縣令一〇
 明四二、三、三一、縣告一四七
 明四四、四、一、省訓四
 大一〇、三、三〇、法一七
 大一〇、一、二、省訓一〇

程

教科書

修正修身教科書修正ニ付其目的貫徹方
 小學校祝日大祭日唱歌用歌詞及樂譜ノ認可等
 小學校唱歌用歌詞及樂譜ニ關スル件
 唱歌ノ歌詞樂譜採用手續省略ノ件
 小學校儀式唱歌用歌詞及樂譜
 小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限
 祝祭日ノ儀式ニ用ヒテ差支ナキ唱歌用ノ歌詞及樂譜
 高等小學校英語教科書採定ノ件
 高等小學校教科用書方手本採定ノ件
 同 上
 高等小學校新定畫帖及毛筆畫帖採定ノ件
 小學校教科用圖書供給上取締方
 教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項
 小學校教科用書翻刻發行ニ關スル規程

明四三、三、二八、省訓二
 明二四、一〇、八、省訓二
 明二五、三、一〇、縣訓四八
 明二六、一〇、二〇、省訓一〇
 明二六、八、一二、省告三
 明二七、一、二、二八、省訓七
 明三五、三、一二、縣告三〇
 明四三、一、二、二八、縣告八七八
 明四三、一、二、二八、縣告八八三
 明四四、六、三〇、縣告四四二
 明四四、一、二、二六、縣告八五七
 明三五、二、一四、省令四
 明三八、一、二、三、省告一五八
 明四二、一〇、二、省告二五四

■補習學校、青年團

- 青年團指導ニ關スル件
- 實業補習學校規程
- 實業補習學校教員資格ニ關スル規程
- 實業補習教育實施要項
- 實業補習教育費補助規程
- 社會教育職員職務規程
- 社會教育ノ職務ニ關スル件
- 社會教育施設方針並實施要項

■學校衛生

- 學校清潔法
- 公立學校ニ學校醫設置ニ關スル規定
- 學校清潔法
- 學校傳染病豫防規程
- 學校醫ノ資格及職務ニ關スル規程
- 學校醫設置及職務ニ關スル細則

- 大四、九、一五、內務省文部省訓
- 大九、一、二、一七、省令三二
- 大九、一〇、六、二二、省令三九八
- 大九、一、二、一四、縣訓六三
- 大九、一〇、三、二三、縣令一四
- 大九、一〇、一、二三、縣訓六二
- 大九、一、二、一八、學六一五三
- 大九、一、五、八、縣訓二八

- 明三〇、一、一一、省訓一
- 明三一、一、一二、勅二
- 明三〇、一、二二、縣訓甲五
- 大八、八、二九、省令二九
- 大九、二、二一、省令七
- 大九、一〇、三、三〇、縣令一九

- 學生生徒兒童身體檢查規程
- 發育概評決定早見表
- トラホーム豫防法施行細則
- 兒童生徒及學生近視豫防ニ關スル件
- 種痘法
- 種痘法施行規則
- 學校用机、腰掛ノ標準ニ關スル件

- 學事年報取調條項及諸表簿樣式
- 學事年報取調條項及諸表簿樣式
- 小學校男兒童ニ關スル事項取調ニ關スル件
- 小學校生徒風紀ニ關スル件
- 一般教育宗教外ニ特立セシムル件
- 同 上
- 學校生徒喫煙禁止ノ件
- 小學校貯金規程
- 學生生徒紫色鉛筆使用禁止

- 學事年報取調條項及諸表簿樣式
- 學事年報取調條項及諸表簿樣式
- 小學校男兒童ニ關スル事項取調ニ關スル件
- 小學校生徒風紀ニ關スル件
- 一般教育宗教外ニ特立セシムル件
- 同 上
- 學校生徒喫煙禁止ノ件
- 小學校貯金規程
- 學生生徒紫色鉛筆使用禁止

- 大九、七、二七、省令一六
- 大九、七、二七、官報
- 大九、一〇、六、二四、縣令四四
- 大九、七、九、省訓四二
- 明四二、四、一四、法三五
- 明四二、一、二、二一、內務省令二六
- 大九、一〇、九、一二、學五五七〇

- 明四四、三、三一、省訓二
- 明四四、四、二八、縣訓甲三〇
- 明四三、一〇、二二、縣訓甲五九
- 明三二、七、一〇、縣訓甲八〇
- 明三二、八、一四、縣訓甲一〇〇
- 明三二、八、三、省訓一二
- 明三三、四、六、縣訓甲三四
- 明三五、一〇、八、縣訓甲一〇〇
- 明三七、八、九、省訓八

紫色鉛筆使用禁止ノ件

小學校樹裁規程

學校樹裁實施獎勵ノ件

一年現役兵ニ關スル取扱手續

朝鮮學事視察ニ關スル件

國有鐵道割引證ニ關スル件

宮城拜觀ニ關スル件

生徒兒童戎器携帶取締ニ關スル件

上級學校ノ入學者ニ準備教育ヲナサ、ル件

小學校兒童上級學校入學試驗應試準備教育禁止ニ關スル件

一年現役兵條例

一年現役兵條例施行細則

明三七、八、二〇、縣訓甲三五

明三〇、二、二六、縣訓甲三二〇

明三七、八、六、省訓七三四

大九、九、三、縣訓四六

大一二、八、二八、學五四〇五〇

大一二、一一、二二、學六六〇八

大一二、六、二〇、學三八五六

大九、一二、四、學六七四九

大九、一〇、一一、一六、學六八二七

大一二、五、九、學二七六八

大九、六、一八、縣訓三六

大八、一〇、三、一、學六四三

大八、一一、二七、勅四七六

大八、一一、二七、陸軍省令五〇

大正十三年二月十四日印刷
大正十三年二月廿二日發行

定價金七拾錢

發行者

熊本縣教育會

印刷者

熊本市南千反畑町三十八番地
前田重雄

印刷所

共力舎

熊本市新屋敷町八十九番地



終